日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

離島における1歳6か月健診児をもつ保護者とその祖父母の育児不安に関する実態調査

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本小児保健協会 公開日: 2019-07-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大重, 育美 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/613

掲載論文の著作権は、日本小児保健協会に帰属する。

報　告

離島における１歳６か月健診児をもつ保護者とその祖父母の育児不安に関する実態調査

大重　育美[1)]，顧　　艶紅[2)]，石垣　恭子[3)]，西村　治彦[3)]

〔論文要旨〕

離島に住む１歳６か月健診児をもつ保護者とその祖父母を対象とし，子育ておよび孫育てに対する育児不安，地域共生意識として地域愛着の程度，精神的健康度として精神的自立度，近所付き合いの程度としてソーシャルサポートについて調査を行った。保護者が祖父母に比べて，育児不安が高く，地域愛着，精神的自立度は低い結果であったが，ソーシャルサポートとの関連はみられた。保護者にとってソーシャルサポートを広げることで地域愛着が高くなり，育児不安の低減につながる可能性が明らかになった。さらに，核家族であるか，また趣味や楽しみのような目的指向性があるかが保護者の育児不安への要因となることが示唆された。

Key words：１歳６か月健診児，離島に住む保護者と祖父母，育児不安，地域愛着，ソーシャルサポート

Ⅰ．緒　　言

保護者にとって安心・安全な子育て環境づくりは，「健やか親子21（第２次）」の継続課題でもあり，地域全体での子どもと保護者を支援する体制が必要となる[1)]。

これまで地域を視点とした子育て支援に関する研究には，地方に住む母親を対象として，０～４歳になるまでの縦断的な調査の結果，肯定的育児感は子どもの成長とともに有意に減少し否定的育児行動の増加が示され，地域型育児支援の必要性を報告した[2)]。へき地で乳児を育てる母親を対象とした報告では，近所に子どもがいないことで子育ての不安が高いと報告された[3)]。地方と都市部の看護職者を比較した調査では，育児サポートとして夫が両群とも最も多く，次いで地方群では義父母と実父母が有意に高く，その理由として子どもの多さと祖父母と同居していることが影響しているという報告があり[4)]，へき地における子育て環境の特徴から地域に即した支援の必要性を説いていた。

また母親の育児不安への影響には，ソーシャルサポートとして祖父母など親族サポートがあり，母親が有職の方が育児不安が低いと報告された[5)]。まさに子育て支援者として，祖父母世代の存在は大きいといえる。特に，離島などのへき地では祖父母の同居率が高く，核家族に比べて子どもと関わる時間が確保しやすいという子育て支援を受けやすい環境であることが知られている[6)]。一方，家族形態として全国的に核家族化が進行し育児の孤独化[7)]も問題となりつつある現況下で，実際の祖父母の存在を前提にした地域のサポートの再構築は望めない。そこで，従来の祖父母機能を捉え直し，その代替機能を備えた保護者支援を行うサ

Study on Anxiety Related to Rearing among Parents and Grandparents Who Have an 18-month-old Child in a Detached Island of Japan　〔2767〕
受付 15．8.31
採用 16．7．5
Narumi Ooshige，Yan-Hong Gu，Kyoko Ishigaki，Haruhiko Nishimura
1）日本赤十字九州国際看護大学（看護師／研究職）
2）帝京大学大学院公衆衛生学研究科・医学部衛生学公衆衛生学講座（研究職）
3）兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科（研究職）
別刷請求先：大重育美　日本赤十字九州国際看護大学成育看護領域　〒811-4157 福岡県宗像市アスティ１丁目１番地
Tel/Fax：0940-35-7508

Presented by Medical*Online

ポート体制を地域で整えられれば，都市部の核家族世帯にも有用であると考える。地域のサポートという点では，コミュニティにおける他者への信頼感が高いほど，母親は子育てを楽しみと感じること[8]，また，地域愛着が高いほど居住意識や連帯感が高まり，子育ての社会化意識を向上させる可能性があること[9]を考慮すると，住民である保護者自身の地域愛着の程度を知り，その向上を図ることは重要である。さらに，育児を行う中での自己決定やそれに伴う責任を通して，保護者としての「生きがい」が形成され自身の生きる目的が明確になること[10]から，保護者の精神的自立度と育児不安の程度は大いに関連している。これらのことから，保護者の地域愛着の程度が高いほど，近所付き合いが多くなり相談しやすい環境が整えられ，さらに保護者自身が精神的に自立できることが，育児不安の低減に結びつくと考える。

そこで本研究では，育児への地域サポートの視点から，離島に住む保護者の子育て不安に着目し，A離島に住む１歳６か月児健康診査の対象児をもつ保護者とその祖父母を対象者とする調査結果に基づき，地域愛着，精神的自立性との関連性から保護者の育児不安の特徴と要因について明らかにすることを目的とした。

Ⅱ．研 究 方 法

１．対　象

長崎県Ａ離島に住む１歳６か月児健康診査の対象児をもつ保護者とその祖父母。

２．調査期間

平成26年４月～平成27年３月。

３．調査方法

無記名自記式質問紙調査を行った。

４．調査用紙の配布と回収方法

無記名の自記式質問紙（保護者用・祖父母用）を１歳６か月児健診案内配布時に同封した。回収は毎月の健診時に随時行った。祖父母が同居またはＡ離島に居住している方を対象としていることを文書にて伝えた。祖父母の回答の回収については，保護者が健診時に持参もしくは郵送法のいずれかとした。

５．調査項目

(1) 属性について

保護者には，家族形態，住まいの状況，子どもの数，昼間の保育場所，父親の年齢，母親の年齢，就業形態，健康状況について問い数値化した。祖父母も，保護者とほぼ同様の項目に育児参加状況を追加した。

(2) 育児不安について

育児不安としては，荒巻ら[11]が住田ら[12]による「育児不安尺度」を改変して作成した育児感情尺度の下位尺度「育て方への不安感」を用いた。祖父母に対しては，「孫育児」として尋ねた。孫育児は，精神的に良い影響を持つだけでなく，抑うつ・不安などの悪い影響の両面を持つため[13]，孫育児における育児不安として用いた。回答は，「全くない」，「あまりない」，「時々ある」，「よくある」の４段階（１～４点）で求めた。

(3) 地域共生意識について

地域共生意識とは，「地域の人々と何かすることで自分の豊かさを求めたい」といった同時代を生きる人々と手を携えて生きていこうという意識を指す[14]。設問内容は野崎の質問項目を参考にした[15]。回答は，「全くあてはまらない」，「あてはまらない」，「あてはまる」，「よくあてはまる」の４段階（１～４点）で求めた。地域共生意識の９項目に対し，因子分析を行い７項目とした。因子数を決定する平行分析では，MAP法もカイザー基準も１因子を提案したため，１因子とし「地域愛着」と命名した。

(4) 精神的自立度について

精神的自立度とは，自分の意思で物事を判断し，自分の責任で行動できる能力を指す。精神的自立度の問いは，「目的指向性」４項目と「自己責任性」４項目から成り立っている。また精神的自立度は，高齢者の主観的幸福感に影響を与える要因[10]である。本尺度作成過程で対象年齢18歳以上69歳までを対象としていることから，本研究では保護者世代にも応用可能と考えた。回答は，「そう思わない」，「どちらかというとそう思わない」，「どちらかというとそう思う」，「そう思う」の４段階（１～４点）で求めた。

(5) ソーシャルサポートについて

ソーシャルサポートは，地域社会にある家族･親戚，友人・知人，隣人などインフォーマルな対人関係を示す[16]。本研究ではインフォーマルな対人関係として家族ぐるみの付き合い人数，留守にする時に頼める人数，

Presented by Medical*Online

顔を合わせれば挨拶をする人数をソーシャルサポートの指標とした。

6．分析方法

保護者の育児不安，祖父母の孫育児不安，目的指向性，自己責任性，地域愛着，ソーシャルサポートの比較をMann-Whitney検定で行い，ソーシャルサポートと育児不安，目的指向性，自己責任性，地域愛着との関連にSpearman順位相関係数を用いた。さらに保護者の育児不安を従属変数とし，独立変数に家族形態，子ども・孫の数，就業形態，ソーシャルサポート，目的指向性，自己責任性，地域愛着とし，重回帰分析（強制投入法）を行った。家族形態，父親，母親の就業形態はダミー変数を用いた。同様に祖父母の孫育児不安を従属変数とし，重回帰分析を行った。その際，家族形態，祖父母の就業形態はダミー変数を用いた。解析の統計ソフトは，IBM SPSS ver22 for Windowsを使用した。

7．倫理的配慮

A離島地域責任者の承諾を得て，対象者に文書にて本研究の趣旨，研究協力の自由，個人情報の守秘および匿名性の確保，研究結果の公表について説明文を添付した調査用紙を郵送した。なお調査用紙の返送をもって同意とすることを明記した。本研究は，研究者の前任校である長崎県立大学一般研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号215）。

Ⅲ．結　　果

回答数は，保護者229名中148名（回答率65％），祖父母66名（回答率29％），尺度において欠損値のあるものを除いて有効回答は保護者138名，祖父母56名であった。

1．調査対象の保護者と祖父母の概要

調査対象とした保護者229名中72％が地元出身者であった。保護者の平均年齢±標準偏差は，父親33.4±5.8歳，母親32.3±4.8歳，祖父母は，祖父62.8±7.8歳，祖母61.0±7.0歳と50歳代および60歳代が中心の世代であった。保護者の家族形態では，核家族55.1％が最も多く，次に二世代，三世代を含めて35.5％であり，祖父母は三世代42.9％が最も多かった（表1，2）。保育所に通っている児は，44.9％であった（表1）。さらに祖父母の育児参加状況としては，食事の世話57.1％，風呂入れ，散歩など日常的な世話39.3％，病気の世話は26.8％が関わっていた（表2）。

表1　保護者の状況

		人数	割合
父親の年代	20代	33	23.9%
	30代	81	58.7%
	40代	16	11.6%
	50代	2	1.4%
	無回答	6	4.4%
母親の年代	20代	39	28.3%
	30代	90	65.2%
	40代	8	5.8%
	無回答	1	0.7%
家族形態	核家族	76	55.1%
	二世代	33	23.9%
	三世代	16	11.6%
	その他	5	3.6%
	無回答	8	5.8%
子どもの数	1人	46	33.3%
	2人	59	42.8%
	3人	27	19.6%
	4人	5	3.6%
	5人	1	0.7%
保育場所	保育所	62	44.9%
	保育所以外	76	55.1%
住まい形態	一戸建て	89	65.0%
	集合住宅	46	33.6%
	その他	2	1.4%
父親の就労状態	フルタイム	131	94.9%
	フルタイム以外	7	5.1%
母親の就労状態	フルタイム	70	50.7%
	フルタイム以外	68	49.3%
あなた自身の健康	はい	137	99.3%
	いいえ	1	0.7%

2．育児不安に関する保護者と祖父母の比較

育児不安に関しては，保護者が育児不安に関する全ての項目で祖父母に比して有意に高かった（$p<0.01$）。地域愛着に関しては，保護者より祖父母の方が，「この地域は生活の場としてどんどん良くなる」を除いて，「今住んでいる地域が好きだ」などの地域愛着の6項目で有意に高かった（$p<0.05$）。目的指向性については，4項目中2項目「趣味や楽しみ，好きでやることを持っている」，「何か夢中になれることがある」で祖父母の方が保護者よりも高かった（$p<0.05$）。自己責任性については，4項目すべてで祖父母の方が保護者

Presented by Medical*Online

表２　祖父母の状況

		人数	割合
祖父の年代	40代	1	1.8%
	50代	11	19.6%
	60代	25	44.6%
	70代以降	6	10.7%
	無回答	13	23.3%
祖母の年代	40代	3	5.4%
	50代	14	25.0%
	60代	34	60.6%
	70代以降	3	5.4%
	無回答	2	3.6%
家族形態	核家族	10	17.9%
	二世代	19	33.8%
	三世代	24	42.9%
	独居	3	5.4%
孫の数	1人	8	14.3%
	2人	13	23.2%
	3人	11	19.6%
	4人	5	8.9%
	5人	4	7.1%
	6人	3	5.5%
	7人	4	7.1%
	8人	4	7.1%
	9人	2	3.6%
	12人	1	1.8%
	14人	1	1.8%
育児参加状況（複数回答）	食事の世話	32	57.1%
	風呂入れ	22	39.3%
	散歩	22	39.3%
	保育園送迎	20	35.7%
	病気時の世話	15	26.8%
	健診時の付き添い	5	8.9%
住まい形態	一戸建て	54	96.4%
	集合住宅	1	1.8%
	その他	1	1.8%
祖父の就労状態	フルタイム	31	55.4%
	フルタイム以外	25	44.6%
祖母の就労状態	フルタイム	20	35.7%
	フルタイム以外	36	64.3%
あなた自身の健康	はい	44	78.6%
	いいえ	12	21.4%

よりも高かった（$p<0.05$）（表３）。

３．ソーシャルサポートに関する保護者と祖父母の比較

家族ぐるみの付き合い人数，顔を合わせれば挨拶をする人数は，保護者と祖父母で違いはなかった。留守にする時に頼める人数が，保護者よりも祖父母が有意に多かった（$p<0.01$）（表４）。

４．ソーシャルサポートと地域愛着，育児不安，目的指向性，自己責任性の関係

保護者は，ソーシャルサポートのすべての項目と目的指向性，地域愛着で正の相関関係があり，自己責任性は「家族ぐるみの付き合い人数」を除いて正の相関があった（$p<0.05$）。育児不安は，ソーシャルサポートのすべての項目と負の相関があった（$p<0.05$）。祖父母では，ソーシャルサポートと無相関であった（表５）。

５．保護者および祖父母の育児不安に関する重回帰分析

育児不安を従属変数とし，独立変数に家族形態，子ども・孫の数，就業形態，ソーシャルサポート，目的指向性，自己責任性，地域愛着を用いて重回帰分析を行った。保護者は，決定係数が0.341（調整済決定係数0.263）という回帰式が得られた。標準変化回帰係数（β）では，家族形態0.32，目的指向性－0.34が有意で説明力のある変数といえた（$p<0.01$）。祖父母は，決定係数が0.224（調整済決定係数0.052）という回帰式が得られたが，有意な回帰式ではなかった。標準変化回帰係数（β）では，孫の数0.35が有意であったが（$p<0.05$），回帰式が有意でないため影響はないといえる。保護者および祖父母とも VIF は1.05～1.78で，すべての独立変数が２以下を示しており[17]，多重共線性は確認されなかった（表６）。

Ⅳ．考　　察

本研究の保護者は，核家族が５割程度を占めており，二世代以降の祖父母同居率は３割程度であった。これは，都市部を対象とした先行研究で核家族が９割を占める背景と比較して[18]，祖父母同居率の高い離島の育児状況を示している。祖父母は，食事の世話など日常的な育児に半数以上参加しており，フルタイムではない部分的な「支援型」の集団といえる[13]。保護者の育児不安は，祖父母の孫育児不安より高かった。本研究では，育て方への不安感を育児不安としているため，祖父母は子育て経験を踏まえた孫育てということで育て方への不安感は保護者に比して低いと考えられる。さらに孫の存在が主観的健康感に影響を与え幸福感が高くなるという先行研究と同様に[19,20]，本研究の祖父母は主観的健康度が78.6％と高く，保護者よりも目的指向性，自己責任性が高いことから，孫育児不安が少ない集団といえる。特に目的指向性では，「趣味や楽

Presented by Medical*Online

表 3 育児不安，地域愛着，目的指向性，自己責任性に関する保護者と祖父母の比較

			人数	平均値	標準偏差	有意確率
育児不安	子育ての負担感がありますか？	保護者	138	2.4	0.8	**
		祖父母	56	2.0	0.7	
	子育てでどうして良いのかわからなくなることがありますか？	保護者	138	2.4	0.7	**
		祖父母	56	2.0	0.6	
	子どもをうまく育てていけるか不安になりますか？	保護者	138	2.4	0.8	**
		祖父母	56	1.9	0.6	
	自分の育て方が良いのかどうか不安になりますか？	保護者	138	2.6	0.7	**
		祖父母	56	2.1	0.6	
地域愛着	今住んでいる地域が好きだ	保護者	138	3.0	0.7	**
		祖父母	56	3.5	0.6	
	この地域のまとまりは良い方だ	保護者	137	2.9	0.6	**
		祖父母	56	3.1	0.8	
	この地域のために何か役立ちたい	保護者	138	2.7	0.7	**
		祖父母	56	3.1	0.7	
	今後もこの地域に住み続けたい	保護者	138	2.7	0.8	**
		祖父母	56	3.4	0.7	
	今の生活に満足している	保護者	137	2.7	0.7	**
		祖父母	56	3.3	0.8	
	この地域は生活の場としてどんどん良くなる	保護者	138	2.3	0.7	n.s
		祖父母	56	2.4	0.8	
	この地域は子育ての環境としては良い方だ	保護者	136	2.8	0.8	*
		祖父母	56	3.1	0.8	
目的指向性	趣味や楽しみ , 好きでやることを持っている	保護者	138	2.8	1.0	**
		祖父母	56	3.3	0.8	
	これからの人生に目的を持っている	保護者	137	2.9	0.8	n.s
		祖父母	56	3.1	0.8	
	何か夢中になれることがある	保護者	138	2.8	0.9	*
		祖父母	56	3.1	0.9	
	何か人のためになることをしたい	保護者	138	2.9	0.8	n.s
		祖父母	56	2.9	0.8	
自己責任性	人から指図されるより自分で判断して行動する方だ	保護者	138	2.9	0.8	*
		祖父母	56	3.2	0.7	
	状況や他人の意見に流されない方だ	保護者	138	2.6	0.7	*
		祖父母	56	2.9	0.7	
	自分の意見や行動には責任を持っている	保護者	138	3.0	0.6	*
		祖父母	56	3.2	0.5	
	自分の考えに自信を持っている	保護者	138	2.7	0.7	**
		祖父母	56	3.1	0.6	

n.s 有意差なし，$^{*}p<0.05$，$^{**}p<0.01$

表 4 ソーシャルサポートに関する保護者と祖父母の比較

		人数	平均値	標準偏差	有意確率
家族ぐるみの付き合い人数	保護者	124	2.6	3.2	n.s
	祖父母	56	3.1	3.5	
留守にする時に頼める人数	保護者	121	0.7	1.1	**
	祖父母	56	1.8	2.4	
顔を合わせれば挨拶をする人数	保護者	107	12.8	16.5	n.s
	祖父母	56	11.5	18.7	

n.s 有意差なし，$^{**}p<0.01$

Presented by Medical*Online

表５　ソーシャルサポートと地域愛着，育児不安，目的指向性，自己責任性の関係

		育児不安	目的指向性	自己責任性	地域愛着
保護者	家族ぐるみの付き合い人数	− 0.212*	0.220*	0.127	0.221*
	留守にする時に頼める人数	− 0.229*	0.188*	0.218*	0.333**
	顔を合わせれば挨拶をする人数	− 0.153	0.228*	0.229*	0.205*
祖父母	家族ぐるみの付き合い人数	0.001	0.078	− 0.124	− 0.041
	留守にする時に頼める人数	0.225	− 0.046	0.009	− 0.022
	顔を合わせれば挨拶をする人数	0.016	− 0.072	− 0.060	− 0.080

*p ＜0.05, **p ＜0.01

表６　育児不安に関する関連要因

変数		保護者				祖父母			
		標準化係数	t	有意確率	VIF	標準化係数	t	有意確率	VIF
家族形態ダミー		0.32	3.10	**	1.12	− 0.25	− 1.74	n.s	1.24
子ども・孫の数		0.02	0.28	n.s	1.10	0.35	2.32	*	1.31
父親・祖父の就業形態ダミー		0.41	1.43	n.s	1.05	0.22	1.37	n.s	1.48
母親・祖母の就業形態ダミー		0.13	1.30	n.s	1.06	− 0.24	− 1.44	n.s	1.63
ソーシャルサポート	家族ぐるみの付き合い人数	− 0.01	− 0.57	n.s	1.40	0.00	− 0.01	n.s	1.78
	留守にする時に頼める人数	− 0.04	− 0.91	n.s	1.35	0.19	1.13	n.s	1.59
	顔を合わせれば挨拶をする人数	0.00	0.14	n.s	1.21	− 0.03	− 0.21	n.s	1.30
精神的自立度	目的指向性	− 0.34	− 3.93	**	1.51	− 0.06	− 0.37	n.s	1.38
	自己責任性	− 0.09	− 0.93	n.s	1.32	− 0.16	− 0.99	n.s	1.53
地域愛着		− 0.07	− 0.68	n.s	1.23	− 0.18	− 1.24	n.s	1.22

家族形態（核家族 =1，それ以外 =0），父親・祖父の就業状態（フルタイム =1，それ以外 =0），母親・祖母の就業状態（フルタイム =1，それ以外 =0）をダミー変数とした。
n.s 有意差なし，*p ＜0.05，**p ＜0.01

しみを持つ」，「何か夢中になれることがある」という項目は，祖父母は地域でできる趣味や楽しみを持つことで「生きがい」につながっていると考える。しかも，祖父母が「生きがい」を感じつつ，留守の際に頼める人数が多いことで孫育てを気負わずにできていると推察される。

地域への愛着形成には，居住年数よりも集団に対する肯定的な印象が大きな影響を与える[19]。地域愛着が保護者に比べ祖父母が強いのは，祖父母の方がＡ離島に長く居住しているだけでなく，これまでの近所付き合いから，孫育児や家族以外にご近所さんを育児の相談相手とするなど，地域住民との交流が促進されている結果と考える。

保護者の育児不安に関連する要因分析では，「核家族」ということ，「趣味や楽しみ，好きでやることを持っている」，「何か夢中になれることがある」という目的指向性が低くなることで育児不安が強くなりやすい傾向を示した。保護者の目的指向性の程度は，祖父母同様「生きがい」の程度を反映していると推察され，保護者が「生きがい」を自覚することで育児不安を低減できることが示唆される。さらに先行研究では，育て方への不安感の関連要因として夫のサポートがあること，育児書，子育て情報などの情報サポートが少ないこと[13]が挙げられていた。核家族で配偶者の協力が得られない状況であれば，ますます育児不安が増強する可能性がある。本研究では１歳６ヵ月児をもつ保護者が対象であり，乳児期に比べ活動性が高くなり，自分で食べるようになるため，保護者の負担感も強く育児不安が表出しやすい時期と考えられる。１歳６ヵ月児と３歳児の比較では，年齢によって母親のストレスの強さがストレッサーによって異なり，共通しているのは，母親の時間のなさに強いストレスを抱えていることであった[21]。１歳６ヵ月の時期には家族だけでなく，地域を含めた外部からの支援が特に必要となる。

祖父母の育児不安に関連する要因分析では，関連要因が特定されなかった。それは，孫育てに関する不安が低いこと，祖父母の目的指向性および自己責任性の精神的自立度が高いことが影響していた。

保護者は，家族ぐるみの付き合い人数，留守に頼める人数，顔を合わせれば挨拶する人数が多いほど，育

Presented by Medical*Online

児不安が低いという結果であった。言い換えれば，ソーシャルサポートの規模が大きいほど育児不安が低減される。非親族ネットワークの規模が大きいほど育児不安が低くなる先行研究と同様の結果を示した[22]。一方，祖父母についてはソーシャルサポートの規模との関連はなかった。高齢者を対象とした調査では[23]，ソーシャルサポートの規模が生活満足度，主観的健康度に影響を及ぼしているとの本研究と異なる結果も見受けられる。その理由は，先行研究の対象者が平均年齢66.7歳の在宅高齢者であるという属性の違いだけでなく[20]，本研究では離島という規模の限られた範囲のソーシャルサポートであることが挙げられる。

したがって，保護者にとってのソーシャルサポートの規模は育児支援の可能性を示しており，育児不安の指標となり得るが，祖父母にとってはソーシャルサポートの規模による影響は地域特性で異なることが示唆された。

本研究の限界としては，A離島に住む保護者とその祖父母を対象としたが，保護者と別居している祖父母の実態を十分に反映できていない点，保護者のうち72%が地元出身者であるが，その特定を考慮していない点で限定的な判断に留まっている。今後の課題としては，本研究結果をもとに面接調査を行い，本研究結果との統合を図ることで，離島地域におけるソーシャルサポート拡大の可能性，世代間の交流機会を増やすなどの具体的な支援につなげていきたい。

V．結　　論

1歳6ヵ月健診児をもつ保護者は，ソーシャルサポートの規模の影響を受けやすく，その規模が大きいほど育児不安は低減し地域愛着は高まることが示唆された。そして，保護者の育児不安を低減するためには，地域の支援者が家族形態を考慮すること，核家族であれば周囲に相談しやすい人がいるかなどのソーシャルサポートの把握を行い，保護者に応じた趣味や楽しみが持てるなどの目的指向性を高める支援の方向性が示唆された。

謝　辞

本研究にご協力いただきましたA離島の保護者および祖父母の皆様をはじめA市役所の健康保健課保健師の皆様に深く感謝いたします。

利益相反に関する開示事項はありません。

文　　献

1）厚生労働省．「健やか親子21（第2次）」について検討会報告書～「すべての子どもが健やかに育つ社会の実現」に向けて～．http：//www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000044868.html（アクセス日：2015年2月21日）

2）加藤道代，津田千鶴．育児初期の母親における養育意識･行動の縦断的研究．小児保健研究　2001;60(6)：780-786.

3）黒田裕子，西岡啓子，加藤優子，他．へき地で乳児を育てる母親の育児支援―1ヵ月健診受診児の母親の調査―．日本ルーラルナーシング学会誌　2010;5：95-104.

4）石倉武子，岸田泰子，矢田昭子，他．看護職者の育児支援に関する研究―第1報 地方と都市部の看護職者の育児状況―．島根医科大学紀要　2002；25：17-22.

5）荒牧美佐子，田村　毅．育児不安・育児肯定感と関連のあるソーシャル・サポートの規定要因：幼稚園児を持つ母親の場合．東京芸術大学紀要　2003；55：83-93.

6）大重育美．離島と市内における一戸建て住まいの家庭内の子どもの事故との関連要因―父親を対象とした地域性の一考察―．日本ルーラルナーシング学会誌　2014；9：1-9.

7）梅田直美．「育児の孤立化」問題の形成過程：1990年以降を中心に．現代の社会病理　2008；23：109-124.

8）本田　光，宇座美代子．3歳児を持つ親の子育てと他者への信頼との関連―父親と母親の特性の違い．日本公衆衛生雑誌　2012；59（5）：315-324.

9）山口のり子，尾形由紀子，樋口善之，他．「子育ての社会化」についての研究ソーシャル・キャピタルの視点を用いて．日本公衆衛生雑誌　2013；60（2）：69-77.

10）鈴木征男，崎原盛造．精神的自立性尺度の作成―その構成概念の妥当性と信頼性の検討―．民族衛生2003；69（2）：47-56.

11）荒牧美佐子，無藤　隆．育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に．発達心理研究　2008；19（2）：87-97.

12）住田正樹，中田周作．父親の育児態度と母親の育児不安．九州大学大学院教育学研究紀要1999；2：19-38.

Presented by Medical*Online

13）小松紗代子，斉藤　民，甲斐一郎．孫の育児に参画する祖父母の精神的健康に関する文献的考察．日本公衆衛生雑誌　2010；57（11）：1005-1013.
14）公益財団法人長寿科学振興財団．高齢者と地域社会．http：//www.tyojyu.or.jp/hp/page000000100/hpg000000016.htm（アクセス日：2014年３月12日）
15）野﨑瑞樹．高齢期の生活と対人交流．平成20年度 生涯現役社会づくり県民意識調査報告書．http：//www.sgsd-gakkai. jp/index/page/id/78（アクセス日：2014年３月12日）
16）Antonucci TC．Personal characteristics，social support, and social behavior．In Binstock RH, Shanas E.（eds.）Handbook of aging and social sciences，3rd edition，1990：205-226.
17）三輪　哲，林　雄亮．SPSSによる応用多変量解析．東京：オーム社東京，2015：96.
18）佐藤美樹，田髙悦子，有本　梓．都市部在住の乳幼児を持つ母親の孤独感に関連する要因．日本公衆衛生雑誌　2014；61（3）：121-129.
19）橋本　翼．高齢者の心理的，精神的健康状態における孫の及ぼす影響～孫―祖父母関係評価尺度を用いた検討～．山形保健医療研究　2012；13：21-32.
20）中村辰哉，浜翔太郎，後藤正幸．孫との関係に着目した高齢者主観的幸福感に関する研究．武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル 2007；8：75-86.
21）日下部典子, 久保義郎．育児ストレスにセルフ･エフィカシーがおよぼす影響（1）．福山大学こころの健康相談室紀要　2013；7：63-71.
22）松田茂樹．インフォーマル・ネットワークと well-being（下）―育児におけるサポート効果―．http：//group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/rp0108a，（アクセス日：2014年４月15日）
23）石川久展，冷水　豊，山口麻衣．高年者のソーシャルネットワークの特徴と生活満足度との関連に関する研究―４つの地域特性別分析の試み―．人間福祉学研究　2009；２（1）：49-60.

〔Summary〕

This study aimed to compare the factors affecting child-rearing in the parents and grandparents who had an 18-month-old child and lived on a remote island. We investigated child-rearing anxiety, community-based attachment, psychological independence, and social support. We found that child-rearing anxiety was higher in the parents than in grandparents, in whom community-based attachment and psychological independence were low. However, with difference from the grandparents, the parents showed a higher level of dependence on the social support. Therefore, the results of this study suggested that community-based attachment was a source of social support for the parents to reduce their child-rearing anxiety. Furthermore, the child-rearing anxiety in the parents was associated with a nuclear family and parents' hobbies.

〔Key words〕
routine health check-ups for 18-month-old child, child-rearing anxiety, community-based attachment, psychological independence, social support

Presented by Medical*Online